

国際理解教育/開発教育 学習指導 (活動) 案

【実践者】

授業者氏名	増田 有貴	学校名	A 市立 B 中学校
教科 (科目)・領域	総合的な学習の時間	対象学年 (人数)	1年1・2組 (48名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2023年11月8日(50分×2時間) ※単元は全35時間		

【実施概要 (1年)】

1. 単元名(活動名) : 地域探究×食×SDGs						
2. 実践する教科・領域 :  総合的な学習の時間		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標 (評価規準を意識して設定) : 「食」からつながる世界や地域の様々な課題や、地域の強み (ヒト・モノ・コト) について、SDGs の視点で探究することを通し、食に関わる課題の多面性や複雑性を理解すると共に、持続可能な社会づくりの観点から、自分自身のあり方を考え、自らの生活や行動に活かすことができるようにする。						
5. 単元の 評価規準 <sup>(1)</sup>	①知識及び技能	①SDGs の視点で探究することを通し、身近な「食」の背景には、世界や地域の様々な課題との関連があることを理解している。 ②収集したい情報に合わせて、適切な方法で効率的に情報収集することができる。				
	②思考力、判断力、表現力等	①探究テーマに迫るための質問を、相手に応じて適切に考えている。 ②モンゴルの遊牧民の暮らしを知ることで、「持続可能な社会づくり」を支えるサステナビリティやレジリエンスを具体的にイメージし、自分自身や地域の強みを捉え直している。 ③探究テーマについて、持続可能な社会づくりの観点から学びをまとめ、他者に働きかける発信をしている。				
	③学びに向かう力	①探究学習や地域探訪を通して、身近な行動が地球規模の課題や社会課題の解決にもつながることに気づき、学びを生活や行動に活かそうとしている。				
6. 単元設定の理由・単元の意義  (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 現在、A 市立 B 中学校 <sup>(2)</sup> において、1年生の総合的な学習の時間 (以下、総合) を支援している。 今年度の1年生は、「食」をテーマにSDGsの視点で地域探究学習を行う。中学生にとって身近な食は、テーマとして多様な広がりをもつ。地域資源 (ヒト・モノ・コト) とのつながりから、その魅力を再発見することも可能であるし、気候変動、紛争、新型ウイルス感染症パンデミックなど地球規模の様々な問題と「食」、そして自分とのつながりとしても学ぶことができる。生徒は、小学校の総合で「地域の食」を体験的に学んでいることから、食への関心は高い。食を切り口とすることで、生徒はテーマを自分に引き寄せて探究し、個々人で多様な学びを展開していくと考え、大テーマを「食」に設定した。					

(1) 各評価について、「7. 単元計画」に評価場面を示す。

(2) 筆者は現在、上越教育大学専門職学位課程に在籍している。当大学では、学校実習を「学校支援フィールドワーク」とし、それと「学校支援課題探究リフレクション」、「学校支援課題探究プレゼンテーション」の2つの科目をあわせて「学校支援プロジェクト」として実施している。A 市立 B 中学校は連携協力校である。今年度は「他者との対話と自己内省から深める探究学習の支援」を連携テーマとし、総合的な学習の時間の支援を行っている。

学年部職員と連携する際、「生徒自身の興味・関心や疑問、課題意識等を大切に、多様な他者との関わりを通して探究を深めていくような授業づくり」を共通認識とし、「課題発見」「情報収集」「整理・分析」「地域探訪」「まとめ」を単元の中で丁寧実施していくこととした。また、生徒が課題同士のつながりやその複雑性に気づけるよう、SDGsを探究学習の視点とする。SDGsの視点とは、探究テーマと17の目標を関連づけるだけではなく、「持続可能性」「誰一人取り残さない」「環境・社会・経済のバランス」「課題同士の繋がり」「課題の自分ごと化」などの視点も含む。このように生徒がSDGsの特徴や理念も理解した上で、持続可能な社会づくりの観点から、深くテーマを探究できるようにする。

後半には、「生徒それぞれが願う持続可能な社会」を問い、「ありたい未来」を描きながら「持続可能な社会づくりに向けて大切なこと」を考える。そのための見方を広げる場として、モンゴルの遊牧民の暮らしを題材とした授業（本時）を行う。自然や生き物と共存する遊牧民の暮らしから、「持続可能な社会づくり」を支えるサステナビリティやレジリエンスの具体を考え、その視点から自分自身や地域の強みを捉え直す機会としたい。その後、生徒は探究テーマごとに地域探訪を行い、地域の大人から持続可能な社会づくりの取組や課題の実際、行動のヒントを学ぶ。モンゴル遊牧民の暮らしを通じた学びが、地域探訪への新たな視点の獲得や動機付けとなるよう接続させたい。

本単元は、SDGsの視点による探究や、多様な他者との学び合いにより、食からつながる課題や地域資源等を多面的・多角的に学んでいけるよう展開していく。本単元を通し、生徒の世界や地域の見方が変容し、課題意識をもって、より良い未来の創造に向けて行動しようとする契機となることを願う。

### 【生徒観】

1学期最後の総合で、「モンゴル食めぐり旅」をテーマに、筆者のモンゴル旅について映像を交えて紹介したところ、どの生徒も興味深そうに聞いており、モンゴルへの興味・関心の高さが窺えた。授業の最後に班で書いたホワイトボードは、様々な疑問や驚き、気づき、「～してみたい」という好奇心のコメントでいっぱいになったほどだった。また、夏休みの課題にあった「1学期の総合学習で特に印象的だったことベスト3」にもほとんどの生徒がモンゴルの授業を書いていたことから、本時ではその内容を発展させた授業を構想することにした。

授業では、大人数の中でも積極的に発言する生徒の姿が多く見られる。また、生徒同士の関わり合いも活発である。

### 【教材観】

本時では、モンゴルの遊牧民の暮らしを扱う<sup>(3)</sup>。日本と比較的近く、日本人にとって馴染みのあるモンゴルであるが、遊牧民が昔から受け継いできた文化、考え方、自然や生き物の捉え方、様々な困難への向き合い方の中に、サステナビリティやレジリエンスのヒントが多くある。モンゴルの遊牧民の暮らしを知ることで、生徒は驚きや感動と共に自分が当たり前としてきた生活や考え方を俯瞰的に見つめ直すだろう。そのことが、地域探訪に向かう新たな視点の獲得や動機付けになることを期待する。

本時で中心となる教材は、モンゴルの遊牧民の日常の写真と、遊牧民の暮らしとサステナビリティカードである。写真は、「家畜の糞の活用」「搾乳と乳製品」「ゲルの中と外観」の3枚である。これらをフォトランゲージの手法で、「何がわかるか」「持続可能な社会づくりのヒントは」に注目し、細部まで読み込み、自由な発想で考えながら「サステナビリティ」を自分の言葉で表現する。「遊牧民の暮らしとサステナビリティカード」はそれぞれ10種類あり、暮らしとサステナビリティの組み合わせや、環境・社会・経済との関連を考える。この2つの活動を通し、生徒は、モンゴルの遊牧民の暮らしに溶け込んでいるサステナビリティやレジリエンスの概念を、具体性を増して理解することができると考える。

なお、本教材は、生徒の共感的な学びを促進できるよう、授業者がモンゴルで実際に見聞き・体験したことを元に、教材研究もふまえて作成したものであるが、中山(2008)が指摘するように、文化素材を単元化するには「対象としている文化は固定されたものではなく、変容し続けているものであること<sup>(4)</sup>」に留意が必要である。生徒に「モンゴルの(全ての)遊牧文化は〇〇である」という誤解やステレオタイプを与えないよう、教材を提示する際は授業者が短期間で見てきた一部の情報でしかないことを伝える。しかしながら、私がモンゴルで見たのは、自然環境や生態系、文化、社会、経済等が刻々と変化していく中、柔軟に暮らしを適応さ

(3) 筆者が7月のモンゴル旅でお世話になった、アルタイ山脈の麓に夏営地を構えるウリヤンハイの方々を題材にした。

(4) 中山京子「国際理解教育における伝統・文化の教育」人間教育研究協議会編『伝統・文化の教育 新教育基本法・新学習指導要領の精神の具現化を目指して』2008年 金子書房 pp.24-33

	<p>せ、昔ながらの知恵と工夫により様々な問題を解決し、遅しくそして前向きに生きる彼らの姿であった。それが彼らのレジリエンスであり、その中に私たちが学ぶべきヒントが多くあると私は考える。授業ではそのことに気づかせたい。</p> <p><b>【指導観】</b> 単元を通して、生徒の日常生活や興味・関心と意識が離れないよう留意する。そのために、単元は「地域食めぐり」として、実際に地域を歩き、生徒それぞれの視点で「食」と関わる地域課題や地域資源を見つけることから始める。また、まとまった学習ごとに「食のマインドマップ」を作成し、興味・関心や課題意識、食に関する学びの広がり等、自身の変容を俯瞰できるようにする。授業は、生徒同士の対話や協働学習により、互いに学び合う場面を多く設定する。さらに自己内省を丁寧に行うことで、自己の気づきや学びを自覚できるようにする。</p>		
<b>7. 単元計画 (全 35 時間)</b>			
時	ねらい	学習活動	資料など
[1次] 1-9	<p><b>【課題発見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「食」からつながる、世界や地域のヒト・モノ・コトについて、興味・関心、課題意識をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の総合学習を振り返る。</li> <li>地域散策を通し、地域のヒト・モノ・コトを食の観点から見つめ直す。(地域食めぐり旅)</li> <li>モンゴルの遊牧民の食文化を知る。</li> <li>探究の意味や方法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自作資料、ワーク等</li> </ul>
[2次] 9-17	<p><b>【情報収集、整理・分析】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究テーマに迫るために、相手に応じて適切にインタビュー調査をするための情報収集や質問の吟味を行う。</li> </ul> <p>知識及び技能① 知識及び技能② 思考・判断・表現①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食に関して興味・関心のあるテーマを設定し、情報収集する。</li> <li>探究チームでの意見交換を通して、地域探訪の目的をすり合わせるとともに、目的に迫るインタビュー内容を考える。</li> <li>テーマの異なる生徒同士で探究の中間発表を行い、互いにアイデアや学びを得て、インタビュー内容を再度吟味する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自作資料、ワーク等</li> </ul>
[3次] 18-19 本時	<p><b>【見方を広げる】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モンゴルの遊牧民の暮らしから、「持続可能な社会づくり」のヒントとなるサステナビリティやレジリエンスを考える。</li> <li>「持続可能な社会づくり」の観点から、自分自身や地域の強みを捉え直す。</li> </ul> <p>思考・判断・表現②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な社会について、生徒の願いを確認する。</li> <li>モンゴルの遊牧民の暮らしを想像し、持続可能な社会づくりのヒントを見出す。</li> <li>モンゴルの遊牧民の暮らしとサステナビリティの具体をマッチングさせることで、サステナビリティの具体的なイメージをもつと共に、モンゴル遊牧民の強み(レジリエンス)を言語化する。</li> <li>「持続可能な社会づくり」の観点から、自分自身や地域の強みを捉え直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自作資料、ワーク等</li> </ul>
[4次] 20-25	<p><b>【地域探訪】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「食」からつながる世界や地域の様々な諸問題、地域の強みについて、理解を深める。</li> <li>持続可能な社会づくりのための取組や、一人ひとりがこれから取り組めそうな行動のヒントを得る。</li> </ul> <p>学びに向かう力①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究チームで、地域の事業所等を訪問し、探究テーマに関して講話をいただいたり、インタビューを行ったりする。</li> <li>地域探訪を振り返り、気づきや学びをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自作資料、ワーク等</li> </ul>
[5次] 26-35	<p><b>【まとめ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な視点から「持続可能な社会づくりに大切なこと」を学び合う。</li> <li>自身の学びや変容を振り返り、探究学習の意義を見出す。</li> </ul> <p>思考・判断・表現③</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域探訪の学び Best3」を共有し、地域での様々な取組や想い、課題同士の繋がり等に気づく。</li> <li>他者に発信する目的や想いを明確にし、探究チームで「地域探訪の学び発信プロジェクト」を企画・実施する。</li> <li>探究の学びや自己の変容を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自作資料、ワーク等</li> </ul>

**8. 本時 (2 時間分) の展開 (概略)**

本時のねらい：

- モンゴルの遊牧民の暮らしから、「持続可能な社会づくり」のヒントとなるサステナビリティや強み(レジリエンス)を考える。
- 「持続可能な社会づくり」の観点から、自分自身や地域の強みを捉え直す。


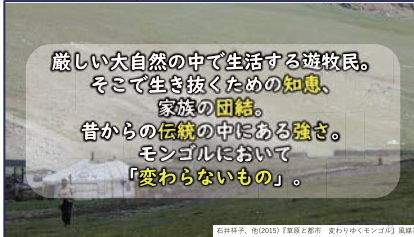
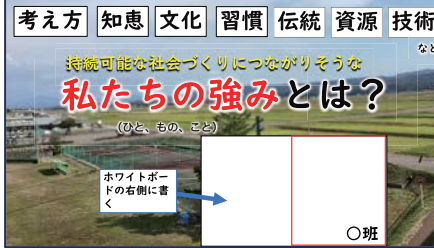
過程時間	学習活動(数字)、教師の働きかけ・発問(T)、予想される生徒の反応(・)	指導上の留意点・支援	資料(教材)
導入	1. 「持続可能な社会」について、生徒の願いを確認	前時までの内容と学	スライド[pp.1-6]

(10分)	<p><b>すると共に、本時の見通しをもつ。(10分)</b> T「地域探訪の目的を確認しましょう。」</p> <p>T「持続可能な社会とは何でしょうか。私たちは何を持続させていきたいのかな。」</p> <p>T「2030年、2050年、2100年とこの先の未来を考えたとき、みなさんの願いはこのような内容でした」</p> <p>T「これらは実現できそうでしょうか。【グループ対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然はそのまま残りそう。</li> <li>● 戦争のない世界はどうかなあ。今も心配。</li> </ul> <p>T「このようにたくさんの願いがあるけれど心配なことはありますか。【グループ対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年の夏は暑過ぎたから、地球温暖化かなあ。</li> <li>● 戦争がウクライナだけじゃなくなっている。</li> <li>● 今年も災害があちこちで起きている。</li> <li>● 私たちの探究テーマだと…</li> </ul> <p>T：各班の考えを共有する。</p> <p>T：「持続可能な社会づくり」を目指すSDGsについて、環境・社会・経済のバランス、誰1人置き去りにしないことが重要であることを確認する。</p> <p>T：「私たちが願う持続可能な社会の実現のための、私たちの強みとは何だろう。今日は、「モンゴルの遊牧民」の暮らしから『私たちの強み』を考えたいと思います。」</p>	<p>習の目的を想起させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;環境&gt;&lt;社会&gt;&lt;経済&gt;ごとに簡潔に振り返る。</li> <li>● 代表者はホワイトボードにメモするよう指示する。</li> <li>● 授業テーマ「私たちの強みとは？モンゴルの遊牧民の暮らしから考えよう」を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スライド[pp.7-8]</li> <li>● スライド[p.9]</li> <li>● スライド[p.10]</li> <li>● スライド[p.11]</li> <li>● スライド[pp.12-13]</li> </ul>
展開① (35分)	<p><b>2. 1学期の「モンゴル食めぐり旅」の授業の内容を想起させる。(5分)</b> T：「1学期の授業で印象に残ったベスト3を書いてももらったところ、モンゴルの授業を書いていた人が多くいました。」</p> <p>T：「モンゴルの遊牧民の暮らしに、持続可能な社会づくりのヒントがあるかもしれません。」</p> <p>T：モンゴルの概要を簡単に説明。</p> <p><b>3. [フォトランゲージ]モンゴルの遊牧民の暮らしを想像し、持続可能な社会づくりのヒントを見出す。(30分)</b> T：本時で大切にしたい授業の姿勢を確認する。「想像力を働かせること」</p> <p>T：フォトランゲージの説明「これから班に1枚と付箋を配布します。写真についてわかることを想像し、ふせんに書いて貼りましょう。【グループワーク】(5分)</p> <p><b>Aの写真</b>動物のフン、フンの山、ゴミ 女性が火をつけている？ 家畜を飼っている、女性の仕事？ 料理をするため火を起こしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業者が三日間の滞在で見た遊牧民の暮らしは、実際の一部に過ぎないことに留意。</li> <li>● 自由にアイデアを分散させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スライド[p.14]</li> <li>● スライド[pp.15-23]</li> <li>● スライド[p.24]</li> <li>● スライド[pp.25-29]</li> <li>● 写真A「家畜の糞」(3つの班に配布)</li> <li>● 写真B「乳製品」(2つの班に配布)</li> <li>● 写真C「ゲル」(3つの班に配布)</li> </ul>



	<p>T:「他の班の付箋を見て、『いいね』『なるほど』、と思うことに☆印をつけましょう」(5分)</p> <p>T: 共有と解説(7分)</p> <p>T:「持続可能とはどういうことでしょうか。人々の暮らしも健康も、自然環境も、あらゆるものがその良さを保ち、ずっと未来に続いていくことだと私は考えます。みなさんはどうですか？私たちが願う未来に向かうために大切なことは何でしょうか。写真から『持続可能な社会づくりのヒント』を考え、付箋に書いて貼りましょう。」(5分)</p> <p>Aの写真燃料を購入しなくて良い 環境に良さそう 無駄がない 生活に工夫がある</p> <p>T: 写真ごとに、グループ代表に発表させ、その内容について解説をする。(8分)</p> <p>T:「普段、当たり前に行っていることの中に、持続可能な社会づくりのヒントが隠れているはず。意識して見てみましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の視点との違いを意識させる。</li> <li>● 特に☆印が多く集まったものや鋭い気づきを取り上げる。</li> <li>● あまりにも実際と異なる捉えは訂正する。</li> <li>● 「当たり前」の中にあるサステナビリティを見直すことの大切さを伝える。</li> <li>● 生徒の声を拾い、板書する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スライド[p.30]</li> <li>● スライド[pp.31-38]</li> <li>● スライド[pp.39-44]</li> <li>● スライド[pp.45-46]</li> </ul>
<p>展開② (40分)</p>	<p>4. これから起こりうる問題から、しなやかな強さ(レジリエンス)の重要性を理解する。その視点からモンゴル遊牧民の強みを考える。(5分)</p> <p>T: 生徒が考える「これからの未来の心配事」を振り返る。これまでの探究学習を想起させ、1つの課題が複数の課題につながることを確認する。</p> <p>T:「みなさんが考える心配ごとはこれからの未来に起こるかもしれません。何か予期せぬことが起きても強くしなやかでありたいですね。そのためには何が大切なのでしょう。もう一度、遊牧民の暮らしを想像してみましょう。みなさんが写真から想像した中で、持続可能な社会づくりにつながりそうな遊牧民の「強み」は何ですか。</p> <p>【個人】→【グループ対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 使えるものは何でも工夫して使う。</li> <li>● 自然を大切にしている。</li> <li>● 自然や動物のことをよくわかっている。</li> <li>● 家畜の世話をしているから体力がありそう。</li> <li>● 家畜から食べ物を得られるから、物価高の影響はなさそう。お金がかからない暮らし。</li> <li>● 強みと言われてもよくわからない…</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業の冒頭に書いたり各班のホワイトボードに注目させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スライド[p.47]</li> <li>● スライド[pp.48-49]</li> <li>● ワークシート①</li> </ul>

	<p><b>5. [カードマッチング]モンゴルの遊牧民の暮らしとサステナビリティの具体をマッチングさせることで、サステナビリティの具体的なイメージをもつと共に、モンゴル遊牧民の強み(レジリエンス)を言語化する。(30分)</b></p> <p>T:「モンゴルの遊牧民の暮らしをさらに詳しくみていきましょう。これから、『モンゴル遊牧民暮らしカード』を配布します。内容を確認してください。【グループ対話】</p> <p>T:「次に、『サステナビリティカード』を配布します。遊牧民の暮らしとつながりそうな持続可能な社会づくりのヒントをマッチングさせましょう。【グループワーク】(10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業者が三日間の滞在で見た遊牧民の暮らしは、実際の一部に過ぎないことに留意。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スライド[pp.50-52]</li> </ul>
		<p><b>モンゴル遊牧民暮らしカード</b></p> <p><b>サステナビリティカード</b></p> <p>遊牧民の文化とつながりそうな持続可能な社会づくりのヒント(サステナビリティ)をマッチングさせよう!</p> <p>環境 社会 経済 ←かかわりそうなものに○ (ホワイトボード用のペンで!)</p>	
	<p>T:「それぞれの内容について、環境、社会、経済でかかわりそうなもの全てに丸を描いてください。【グループワーク】</p> <p>T: カードの組み合わせを確認。「新たな気づきや疑問」があった生徒の声を共有する。(5分)</p> <p>T:「もう一度、持続可能な社会づくりを考えたとき、遊牧民の強みは何か、想像してみましょう。また、なぜそれが強みになるのでしょうか。【グループ対話】(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 家族や近所の人同士の助け合いが強そう。</li> <li>● やっぱり自分たちで何でも作ったり修理できたりするのはすごい。電気まで。</li> <li>● 災害への備えが当たり前にある。</li> <li>● でもこれで遊牧民は豊かなのかな? 不便さはないのかな?</li> </ul> <p>T: 共有 (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 早く終えた班には、「新たに気づいたこと」を対話させる。</li> <li>● 捉え方により様々あるため、正解はないことを伝える。</li> <li>● フォトランゲージの付箋やマッチングカードを振り返りながら考えさせる。</li> <li>● 代表生徒にホワイトボードにメモさせる。</li> <li>● 生徒の声を拾い、板書する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スライド[p.53]</li> <li>● スライド[pp.54-56]</li> </ul>
	<p><b>6. 授業者が考えるモンゴル遊牧民の強さ(レジリエンス)を知る。(5分)</b></p> <p>T:授業者が留学時(2006年)に見たモンゴルの人々のたくましさや生活の工夫と、今年の滞在時のエピソードを紹介する。「今回の滞在で私が最も感動したのは、ウリヤンハイの人たちの考え方(取り過ぎない、必要な分だけ、みんなで分かち合う)。私たちの生活でも大事な考え方だと思います。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● あくまで、授業者の経験と感想。価値観の押し付けにならないよう留意。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スライド[pp.57-58]</li> <li>● スライド[p.59]</li> </ul>

	<p>T:モンゴルが今、直面している課題を想像させる。「1940年→2015年(+2.24℃)、2021年→2022年(+22%)、これは何を表しているでしょう。モンゴルの75年間での気温の上昇と、1年間の食糧の物価高騰の割合です。自然の中で生活する遊牧民にはとても厳しい問題です。」</p> <p>T:モンゴル遊牧民の強さを伝える。「厳しい大自然で生き抜くための知恵、日々のたゆまぬ努力、家族の団結が遊牧民にはある。昔から伝えられてきた伝統の中にあるしなやかな強さ。これがモンゴルにおいて『変わらないもの』です。」</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● スライド[pp.60-61]</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● スライド[p.62]</li> </ul> 
<p>展開③ (10分)</p>	<p>7. モンゴル遊牧民のレジリエンスの学びを活かし、自分自身や地域の強みを「持続可能な社会づくり」の観点から捉え直す。(10分)</p> <p>T:「これから私たちが持続可能な社会づくりに向かうために大切なことは何でしょうか。」</p> <p>T:「私たち一人ひとりが願う持続可能な社会にするための『私たちの強み』をみんなで考えましょう」【グループ対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 板倉地区も自然が豊かだから米や野菜はとても美味しい。ずっと食べ続けられる。</li> <li>● 近所の人と助け合っている。フードバンクも地域の助け合い。災害時の声かけも。</li> <li>● モンゴルには長期保存ができる食品があったけど、私たちの地域も発酵食品は有名だよ。</li> </ul> <p>T:「これまで当たり前と思っていたことが実はとても大切な強みだったりすることがあります。見方を変えることでそれに気づき、日常の中で大切にしてほしいと思います。学びは一生ものです。明日が新たなスタートとなるといいですね。」</p>	<p>各班のホワイトボードの「心配ごと」の記述、フォトランゲージで使用した写真や付箋、マッピングカード、ワークシートの記述を振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 代表生徒にホワイトボードにメモさせる。</li> <li>● 普段の当たり前を価値づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スライド[p.63]</li> <li>● スライド[pp.64-66]</li> <li>● スライド[pp.67-68]</li> </ul> 
<p>まとめ (5分)</p>	<p>8. 学びを振り返る。 T:振り返り(リフレクション)をさせる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ワークシート③</li> </ul>

<p>9. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● モンゴルの遊牧民の暮らしから、「持続可能な社会づくり」のヒントとなるサステナビリティやレジリエンスを具体的にイメージすることができている。(フォトランゲージの付箋、ホワイトボード、ワークシートの記述)</li> <li>● 持続可能な社会づくりの観点から、自分自身や地域の強みを捉え直している。(ワークシートの記述)</li> </ul>
<p>10. 学習方法および外部との連携 (本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 校内研究である「聞く」「話す」スキルを高めることを意識し、本時はワークショップ形式で実施した。山中(2022)によると、ワークショップの意義は「参加者一人ひとりの思いや意識のつながりが『場』を創り出し、『場』が参加者の新たな学びをうみ、態度や意識の変容を促すという相互作用<sup>6)</sup>」であるという。本時でも生徒同士の相互作用が多く見られた。その成果を「14.成果が出た点」で詳しく述べる。</li> </ul>

(5) 山中信幸「ワークショップ」日本国際理解教育学会編『現代国際理解教育辞典 改訂新版』2022年 明石書店,p.202



11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	
(1) 本時で使用した教材をアレンジした実践	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第40回 RING セミナー(国際教育研究会)「モンゴルウルルン滞在記～モンゴルで感じたサステナビリティやレジリエンス～」(2023年10月14日)</li> <li>● 2年生の総合授業「Let's go!モンゴル旅!!サステナビリティってなんだ!?!」(2023年11月17日)</li> <li>● SDGs 子ども大学(SDGs 子ども大学上越実行委員会主催)「モンゴル旅にレッツゴー!」2024年2月実施予定)</li> </ul>	
(2) 実践発表・報告	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上越教育大学専門職学位課程(グローバル・総合分野)学修成果発表会(2024年1月26日)</li> <li>● 「先生のための勉強会 連続講座『ともに創る 深いSDGsと新たな学校文化』(朝日新聞社主催)の実践報告会 (2024年3月27日)</li> </ul>	

## 【自己評価】

12. 苦勞した点 (本時について)	<p><b>(1) 多様な学びを生み出す教材づくりとファシリテート</b> そこに全ての情報が書いてあり、生徒がそれを読み取ることで、予め設定された答えに誘導されるような教材では生徒はワクワクしない。今回作成した教材は、私が今夏、モンゴルで見てきた「実際の遊牧民の暮らし」が題材である。生徒の興味・関心を刺激すると共に、想像力を働かせ、多様に学びが生み出されるような余白があり、なおかつ気づかせたいところには気付けるような教材にするための資料選定に苦勞した。 一方で、生徒に誤った認識を与えないよう、授業者である私自身は「遊牧文化」を正しく理解する必要があると考え、教材研究を入念に行なったが、そこにかかなりの時間を要してしまった(参考資料参照)。 授業でのフォトランゲージやカードマッチングは、生徒の気づきや学び合いを促すための教師のファシリテートが重要であった。そのため教材の汎用性について、「授業者が変わっても同様の授業が可能か」と考えると難しい。</p> <p><b>(2) 単元のねらいに迫る国際理解の授業づくり</b> 本時は「一度きりの単発授業」ではなく、35時間の単元の中で有効に働く国際理解の授業づくりを目指した。そのため、単元のねらいに迫り、かつ本時までの生徒の学びの過程を活かすことに留意し授業づくりを行ったことで、直前まで授業内容の微調整が必要であった(本時の最後に予定していた「行動に繋げる問いかけ」は、生徒の実態を考慮し前日に削除した)。授業づくりの過程では常に不安であったが、アドバイザーの藤原先生より「思いは熱く、授業は冷静に。授業では、生徒たちの表情、応答を確かめながら。」とのご助言をいただいたおかげで、当日は指導案に縛られ過ぎず、生徒との対話を大切に伸び伸びと授業を進めることができた。</p>
13. 改善点 (本時について)	<p><b>「私たちの強み(レジリエンス)の捉え」について</b> 学習活動7の「モンゴル遊牧民のレジリエンスの学びを活かし、自分自身や地域の強みを『持続可能な社会づくり』の観点から捉え直すこと」が本時で最も重要な学習活動であったが、ねらい通りにできていたか疑問である。その原因を考察する。</p> <p><b>(1) 漠然とした「私たち」と「強み」</b> 授業者は、「私たち」とは当然「私たちの住む地域」も含まれるだろうと想定していたが、中には「教室内の1年生」と狭めて捉えた生徒もいたようである。そのような生徒が記述する「強み」は、学習活動1で記述した「この先の未来の心配ごと」の解決からはかけ離れた、漠然としたものになっていた。「強み」をどのように意味付けるかに正解はないが、「考えられるものは何でもあり」のようになってしまったのは残念である。反省点として、「私たちとは誰だろう。みなさんの暮らしや、これまで学習してきた私たちの地域の中に強みはないかな。」と広く地域にも目を向けさせる必要があった。また、強みの視点(考え方、知恵、文化、習慣、伝統、資源、技術など)の確認も不十分であった。</p> <p><b>(2) 生徒が熟考するのに十分な時間の必要性</b></p>



	<p>学年部の A 教諭から授業後にいただいたアンケートでは「(中略)自分の強みを考える時間がもう少しあると良かったと思いました。本当は自分たちにも強みがあるのに、それをあまり引き出せなかったようにも思います。改めて自分たちの強みについて深く考えることで、『だから自分たちは〇〇する』というところに辿りつけるような気がしました。」とご指摘をいただいた。A 教諭は生徒のグループに入り、「強み」について生徒とともに悩み考えてくださっていた。本授業は、生徒の「発想力や見る力」を伸ばす上で、効果的な授業であったからこそ、最後の時間配分が惜しかったという。自分を含む周りのヒト・モノ・コトや地域を俯瞰し熟考できる十分な時間の確保が必要であった。</p> <p><b>(3) 自分たちの「強み」を俯瞰することの難しさ</b></p> <p>「自分たちの強み」を俯瞰して捉え直すことが容易ではないことも確かである。私自身の経験を振り返っても、何か予期せぬことが起き、そこで自分自身（あるいは自分を取り巻く何か）のレジリエンスが発揮できた時、そしてレジリエンスを意識した時に初めて、自覚的になる。本授業で生徒たちは自由にモンゴルの遊牧民の強み（レジリエンス）を意味付けたが、おそらくモンゴルの遊牧民は、それが自分たちの強みであるとは意識していないだろう。授業後に実施したリフレクションで、他の院生より「<u>自分の強みを見つけること自体が難しい。(空間的にも時間的にも)距離があるからこそ強みが見えるのではないか。</u>」と指摘を受けたがそれも頷ける。しかしながら、A 教諭の記述にもある通り、自らのレジリエンスを自覚することは、先行き不透明な時代においても、自分（たち）の強みを活かそうと主体的に行動しようとする原動力になるのではないかと、そして、そのレジリエンスは自分自身や地域の自信と誇りにもなり得るのではないかと私は考える。だからこそ、自らは見えにくいレジリエンスをモンゴルの遊牧民の暮らしの中から見出すことで、自分たちを相対化して振り返らせたいと考え実施したのが本時である。(1)(2)の反省点を改善し、今後の授業でもレジリエンスを意識させていきたい。</p>
14. 成果が出た点 (本時について)	<p>「15.学びの軌跡」の生徒の記述と学年部職員のアンケートの記述を中心に、成果を考察する。</p> <p><b>(1) 多面的・多角的な見方の獲得と生徒同士の相互作用の創出</b></p> <p>生徒の記述を読むと、フォトランゲージ①では、3枚それぞれの写真を細部まで、想像力を働かせながら読み込み、多様に考えていることが分かる。それらを全体で共有した上で実施したフォトランゲージ②の記述では、3枚の写真の内容は異なるものの、「持続可能な社会づくりのヒント」と考える視点は同じであるにも関わらず、物の使用方法や食文化、考え方、自然環境、健康、循環など、1枚の写真から多角的に考え、多様に意味づけをしていることが分かる。B 教諭からは「<u>モンゴル遊牧民の生活の色々な写真を見ながらイメージを膨らませることで、様々な角度で意見を引き出すことができていて良かった</u>」と感想があった。</p> <p>グループワークにより、自分では気づかなかった視点を他者から学び、それが刺激となりさらに発想が湧いたのでは、という効果も期待される。生徒 A は「<u>みんなで考え、意見を出し合えることが楽しかった</u>」と振り返っている。生徒が主体的に読み取り、気付きや考えを共有するフォトランゲージ①②を通し、サステナビリティを多角的にイメージするだけでなく、生徒同士が学び合う相互作用を生み出すことができた。</p> <p><b>(2) 遊牧民の暮らしとの出会いによる気づき、学び、概念形成、自分ごと化</b></p> <p>「遊牧民の暮らしカード」と「サステナビリティカード」のマッチングワークでは、遊牧民の暮らしとサステナビリティを概観することを通し、そのサステナビリティを支える「強み(レジリエンス)」を見出した。ここでも生徒はそれぞれの捉えで、モンゴルの遊牧民の強みを言語化することができた。特に生徒の記述で多かったのは「自然環境や生き物への配慮」「あらゆる資源の有効活用」「問題解決力」「自活力」「逞しさ」「他者との協力」「工夫・知恵・考え方」に関するものだった。日頃インターネットでよく調べてしまうという生徒 B は「<u>モンゴルの人々の『強み』を見習って、自分で考えることも大切にしたい</u>」と決意を記している。他にも、「<u>再利用の考え方を真似して、私たちの強みを広げたい</u>」「<u>私もモンゴルの人たちのように家畜や命を大切に、みんなで助け合うそんな人になりたい</u>」と自分の行動や在り方を考える生徒もいた。また、C 教諭は「<u>モンゴルという自分達とは異なる暮らしと、日本(自分達)の暮らしを比較することによって、持続可能な社会の実現のためにできることを多角的に考え気付くことができる授業だった</u>」と振り返っている。このように、モンゴルの遊牧民の暮らしを通して、持続可能な社会づくりを多角的に考えるとともに、その学びを自身の生活や行動に活かそうとする意欲が見られたことは大きな成果だと言える。</p>

15. 学びの軌跡 (本時について)	生徒 A	生徒 B	生徒 C
<b>学習活動 1</b> [ホワイトボード] ① <b>班活動</b> ●この先の未来の心配ごと	●社会。政治を回している人たちが自国のことを中心に考えている。 ●軍事力。 ●異常気象。	●人口増加による食料不足。 ●氷河期。 ●地球温暖化。海面上昇。 ●南海トラフ。	●争い。戦争。 ●SDGs。 ●飢餓。 ●地球温暖化。
<b>学習活動 3</b> [フォトランゲージ]① <b>個人の付箋</b> ●写真からわかること	【写真 A について】 ●動物の糞を燃料にしている。 ●家庭ごみも一緒に入っている。 ●乾燥してある。	【写真 B について】 ●野菜が少ない。 ●バケツが多い。 ●スープ系 ●黄色っぽい食べ物や同じような食べ物が多い。 ●木がない。	【写真 C について】 ●バッテリーでスマホを充電している。 ●床がもう地面になっている。 ●鍋が大きい。
<b>学習活動 3</b> [フォトランゲージ]① <b>班で持ち寄った付箋</b> 写真からわかること	【写真 A について】 ●動物の糞を燃料にしている。 ●家庭ごみも一緒に入っている。 ●乾燥してある。 ●靴が丈夫。 ●シートが二重になっていて汚れないようになっている ●糞を一箇所に集めている ●草が生えている。 ●地面がある。 ●人がいる。 ●ピンクの服をきている。 ●お金を節約する。新しく燃料を買っていない。	【写真 B について】 ●動物がいる。 ●平地 ●野菜が少ない。 ●バケツが多い。 ●スープ系 ●黄色っぽく同じような食べ物が多い。 ●木がない。 ●甘そうなものが多い。 ●バケツの中に食べ物が入っている。 ●筋肉質な人が多い。 ●暑そうなどころなのに長袖と長ズボンを着ている。	【写真 C について】 ●電子機器がある。 ●1 部屋しかない。 ●中はきれい。 ●太陽光パネルがある。 ●鍋がいっぱいある。 ●風呂がない。 ●バッテリーでスマホを充電している。 ●床がもう地面になっている。 ●鍋が大きい。 ●いろんな色がある。 ●家の中の天井で服を干している。 ●トイレがない。
<b>学習活動 3</b> [フォトランゲージ]② <b>個人の付箋</b> ●持続可能な社会づくりのヒント	【写真 A について】 ●無駄がない。 ●環境に悪くない。 ●草がたくさんあるから CO <sub>2</sub> が多くなる。 ●靴が丈夫。長く使える。	【写真 B について】 ●いろいろな乳製品を作る時 AI に任せていない。 ●資源を無駄なく使う。	【写真 C について】 ●自然を感じる。緑があって感じられる。 ●ものをずっと使っている。
<b>学習活動 3</b> [フォトランゲージ]② <b>班員で持ち寄った付箋</b> ●持続可能な社会づくりのヒント	【写真 A について】 ●無駄がない。 ●環境に悪くない。 ●草がたくさんあるから CO <sub>2</sub> が多くなる。 ●靴が丈夫。長く使える。 ●いらなくなったものを快適な暮らしに繋げている。 ●木材の使用(物)が多い。 ●バケツがステンレス→長く使える。錆びない。 ●毎日動くから健康的。 ●長く使っている。壊れたりするまで使う。	【写真 B について】 ●あまりゴミを出していない。 ●動物の糞を燃料にして少しでも再利用している。 ●いろいろな乳製品を作る時 AI に任せていない。 ●資源を無駄なく使う。 ●有害なものを出していない。 ●牛乳をすぐに使わずにためている。	【写真 C について】 ●家の材料が少ない(最小限の材料) ●無駄がない。 ●1 つの部屋だから電気の消費量が少なくて済む。 ●太陽光発電をしている。 ●自然を感じる。緑があって感じられる。 ●ものをずっと使っている。 ●ゴミが全然ない。 ●料理をあまりないように作っている。
<b>学習活動 4</b> [ワークシート] 個人 ●モンゴルの遊牧民の強み	●自然の原理を上手に活用している。 ●あまり他の人と会うことがないから自分の家族への愛が深い。 ●問題が起きても解決しようと取り組んでいる。	●資源を無駄にしない。 ●常に SDGs。 ●地球をあまり汚さない。 ●生活の知恵の多さ。	●なんでも手作り。 ●自然の環境に馴染んでいる。 ●ものをずっと使っている。 ●仲が良い。
<b>学習活動 4</b> [カードマッチング] <b>班活動</b> ●遊牧民の暮らしと「環境・社会・経済」との関連付け (※正解はない)			

<p>学習活動 4 [ホワイトボード] ②] <b>班活動</b> ● <b>モンゴルの遊牧民の強み</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SDGs に貢献できている。</li> <li>●体力。パワー。</li> <li>●考え方が素敵。</li> <li>●問題が起きても工夫して解決できる</li> <li>●自然科学を利用している。</li> <li>●非常食がたくさんある。</li> <li>●頭が多分いい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●常に SDGs</li> <li>●体力</li> <li>●資源を無駄にしないための知恵が多い。</li> <li>●地産地消</li> <li>●自給自足</li> <li>●AI に頼っていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仲がいい。</li> <li>●体力がある。</li> <li>●手作りのものが多い。</li> <li>●ものを大事にする。</li> <li>●環境に良いことをいっぱいしている。</li> <li>●津波がない。</li> <li>●災害が少ない？</li> </ul>
<p>学習活動 7 [ホワイトボード] ③] <b>班活動</b> ● <b>私たちの強み</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多面的に考えることができる。</li> <li>●子供の特権。</li> <li>●SDGs や政治への関心がある。</li> <li>●インターネットや AI を有効的に使える。</li> <li>●仕事ができる。</li> <li>●和食。美味いよね。</li> <li>●四季があり楽しめる。</li> <li>●文化を大切にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●AI を上手に活用する力</li> <li>●コミュニケーション能力が高い。</li> <li>●野菜を美味しく食べる。</li> <li>●学習能力が高い。</li> <li>●米がある（食べられる）</li> <li>●安全（交番がある）</li> <li>●頑丈な家がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●頭がいい。</li> <li>●世界を変えることができる。</li> <li>●ものが揃っている。</li> <li>●最先端のものを使っている。</li> <li>●技術力が高い。</li> <li>●綺麗な水がある。</li> <li>●海がある。</li> <li>●電気が身近にある。</li> <li>●学校がある。</li> </ul>
<p>学習活動 8 [ワークシート] <b>個人</b> ● <b>振り返り</b></p>	<p>●モンゴルのことについて、聞くだけではなくみんなで考えて意見を出し合えてとても楽しかったです。モンゴルの人たちの強みもあるけど自分たちの強みもあるので、うまく両方を取り入れてより良い社会になるようにしていけたらいいなと考えました。</p>	<p>●住んでいる場所や生活の仕方によって「強み」が異なることがわかりました。また、様々な地域の強みを合わせれば SDGs などの大きな問題も解決に近づけそうだなと思いました。私はよく Google で調べてしまいますが、モンゴルの人々の「強み」を見習って、自分で考えることも大切にしたいと思いました。</p>	<p>●モンゴルの遊牧民の強みとは何かを考えて、暮らし方と環境での繋がりをよく学びました。自分たちの強みを考えるのは難しかったです。しかしながら、色々なことを発見して、強みとは何かを考えられました。日々の学びを生活に生かしたり、強みを知って気づかなかったことにどんどん気づいたりしていくことが大切であるということがよくわかりました。</p>
<p>16. 授業者による自由記述</p>	<p>「あれもこれも伝えたいのは分かりますが、情報量が多いと生徒は引いてしまう。写真1枚をじっくり眺めるだけでも、生徒はいろんなことに気づくと思いますよ。」</p> <p>10月初めに、大学のゼミで本時の授業構想を発表した際、アドバイザーのK教授からいただいたこのご指摘にハッとした。その時の私は、教材開発を張り切りあまり、学習者の思考を無視した情報過多の一方的な授業を構想してしまっていたのである。これは、2016年に参加したJICA 教師海外研修後の実践の反省点でもあった。そこから指導案を大幅に変更した。モンゴルで得た素材をじっくり見直し、中山先生の講義にあった「情報の切り取り」に留意しつつ、3枚の写真から読み取るフォトランゲージを考えた。これを10月に小学生から大人まで参加したセミナーで試してみたところ<sup>(6)</sup>、参加者は熱中して取り組み、遊牧民の暮らしに思いを馳せることを楽しんでいる様子が窺えた。また、他の参加者の気づきに「なるほど」と学び合う姿があった。この姿に感銘を受け、本時に向けても、生徒が想像力を働かせ多角的に考えたり、意見交流を通しさらに学びが深められたりするような授業を意識することができた。</p> <p>連携協力校では1年生と2年生の総合で授業実践させていただいたが、感性豊かで意欲的に取り組む生徒たちから、学ぶことがとても多くあった。本報告書には記載していないが、この授業から数週間経った頃に、ある授業の中で本授業と関連する呟きが増えたり、「モンゴルの〇〇がとても印象に残っている」と振り返る記述を目にしたりと、授業の改善点は多々あるものの、本研修に参加し、国際理解教育/開発教育にとことん向き合い、今だからこそできる教材開発・授業実践をやらせていただいていたことにありがたかったと心から思う。</p> <p>本研修でお世話になったすべての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。</p>		

参考資料：

- 石井祥子他編『草原と都市 変わりゆくモンゴル』2015年 風媒社
- 枝廣淳子『レジリエンスとは何か 何があっても折れないところ、暮らし、地域、社会をつくる』2015年 東洋経済新報社
- 金岡秀郎『モンゴルを知るための65章[第2版]』2014年 明石書店
- 小長谷有紀『人類学者は草原に育つ 変貌するモンゴルとともに』2014年 臨川書店

(6) 第40回 RING セミナー(国際教育研究会) (2023年10月14日) 佐渡会場

- 小長谷有紀『世界の食文化③モンゴル』2005年 農文協
- 小長谷有紀『モンゴル草原の生活世界』1996年 朝日新聞社
- 小長谷有紀『モンゴル万華鏡 草原の生活文化』1992年 角川選書
- 周瑋生他編『SDGs時代のサステナビリティ学』2022年 法律文化社
- 西村幹也『しゃがぁ』2009年-2022年 NPO 法人北方アジア文化交流センターしゃがぁ vol.47,49,51,52,53,54,55,56,59
- 古川柳蔵他編『在来知と社会的レジリエンス サステナビリティに活かす温故知新』2021年 筑波書房
- 前川愛、小長谷有紀編『現代モンゴルを知るための50章』2014年 明石書店
- bne IntelliNews 「Mongolia consumers feel weight of inflation as food prices rise」  
<https://www.intellinews.com/mongolia-consumers-feel-weight-of-inflation-as-food-prices-rise-258486/> (2023年12月3日最終閲覧)
- Global Programme on Climate Resilient Economic Development 「Economy-wide impacts of climate change and adaptation in Mongolia」  
<https://www.giz.de/en/downloads/giz2023-en-macro-impacts-e3-mongolia.pdf> (2023年12月3日最終閲覧)
- WWF 「Dzud, the natural disaster affects livestock and wildlife in Mongolia」  
<https://wwf.panda.org/es/?261292/Dzud-the-natural-disaster-affects-livestock-and-wildlife-in-Mongolia> (2023年12月3日最終閲覧)

今日のテーマ

# 私たちの強みとは？

モンゴルの遊牧民の暮らしから考えよう

1

地域探究 × 食 × SDGs

# 地域探訪まであと1日！

2

各チームの探究テーマと地域探訪の訪問先

3

### 地域探訪の目的

- 「食」からつながる地域や世界の様々な諸問題や、地域の強みについて、理解を深める。
- 持続可能な社会づくりのための取組や、一人ひとりがこれから取り組めそうな行動のヒントを得る。

4



5

## 持続可能な社会って何？

私たちは何を持続させていきたいの？

6

### どんな未来になってほしい？

2023年	2030年	2050年
13歳	20歳	40歳

今 → ? → ? → ?

7

どんな未来になってほしい？ (10月4日の授業ワークシートより)

<環境>	<社会>	<経済>
生徒の願い	生徒の願い	生徒の願い
		<全体>
		生徒の願い

8

### 実現できそう？

<環境>	<社会>	<経済>
生徒の願い	生徒の願い	生徒の願い
		<全体>
		生徒の願い

9

### 心配なことは？

<環境>	<社会>	<経済>
生徒の願い	生徒の願い	生徒の願い
		<全体>
		生徒の願い

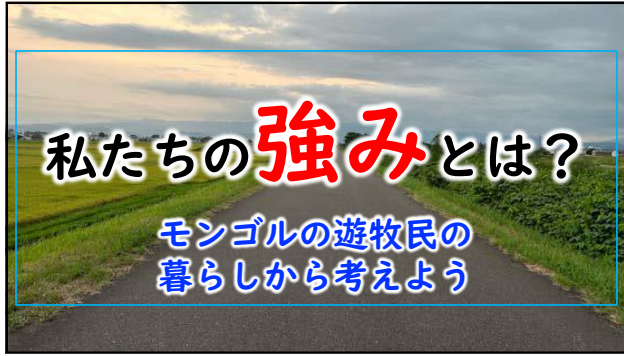
10



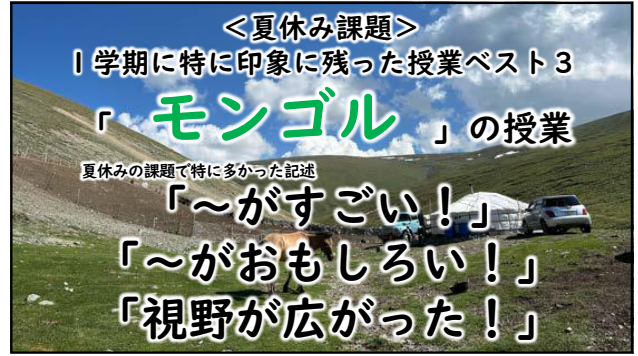
11



12



13



14



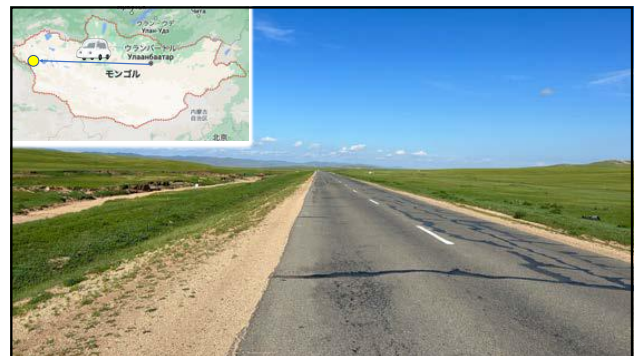
15



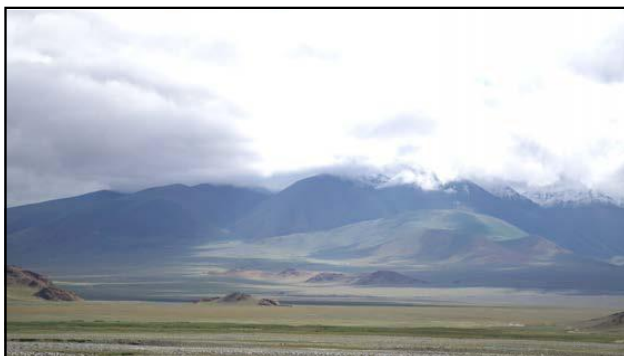
16



17



18



19



20



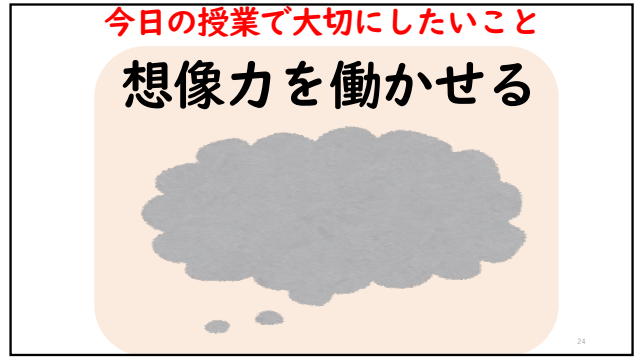
21



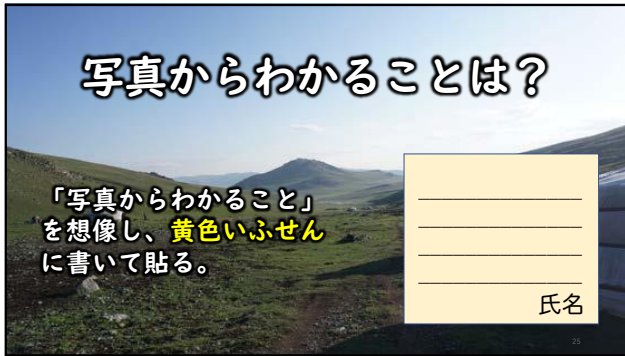
22



23



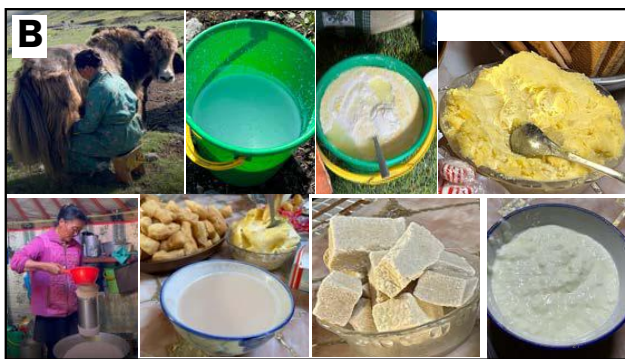
24



25



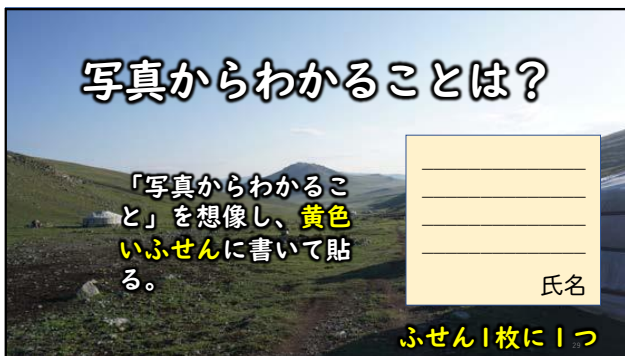
26



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



39



40





41



42



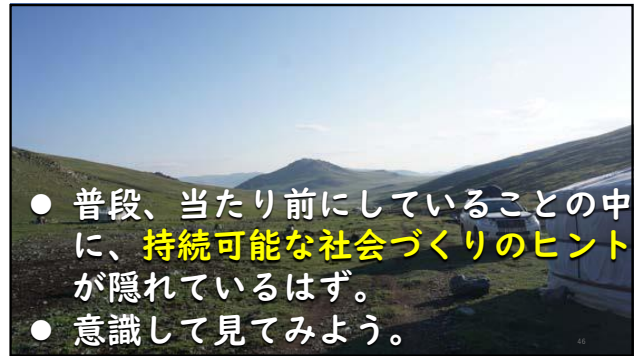
43



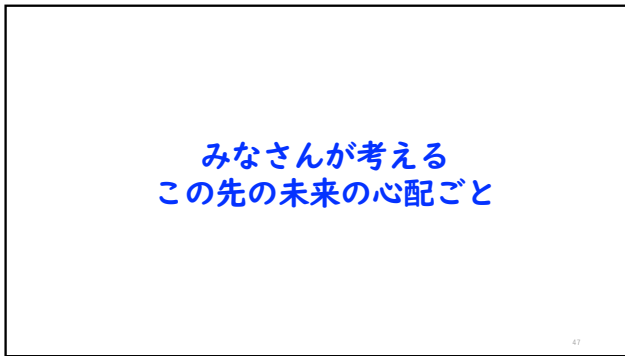
44



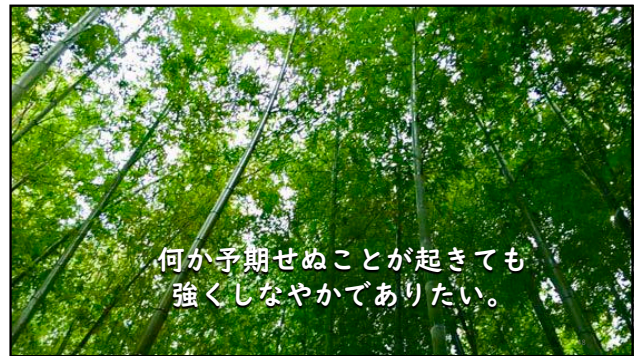
45



46



47



48



49



50

サステナビリティカード			
(A)栄養不足にならず健康状態を維持できる。体力あり！	環境	社会	経済
(B)二酸化炭素を排出しない、エコな移動手段。	環境	社会	経済
(C)きれいなエネルギーを使い続けられる。資源の循環。	環境	社会	経済
(D)自然が維持される。誰もが自然の恵みを得られる。	環境	社会	経済
(E)人の手が必要なときはお互いに助け合える強いつながり。	環境	社会	経済
(F)草が食べ尽くされることがなく再生される。	環境	社会	経済
(G)石油や石炭に頼らないので環境に優しい。自然の循環。	環境	社会	経済
(H)好みの草が異なるため草地への負担が少ない。家畜によって活用方法がさまざまある。	環境	社会	経済
(I)備蓄は自然災害への備えにもなる。発酵食品は健康にも良い。	環境	社会	経済
(J)食料や生活に必要なものは健康にも良い。	環境	社会	経済

51

### モンゴル遊牧民暮らしカード

### サステナビリティカード

遊牧民の文化とつながりそうな  
持続可能な社会づくりのヒント(サステナビリティ)をマッチングさせよう！

52

### モンゴル遊牧民暮らしカード

### サステナビリティカード

遊牧民の文化とつながりそうな  
持続可能な社会づくりのヒント(サステナビリティ)をマッチングさせよう！

環境

社会

経済

←かかわりそうなものに○  
(ホワイトボード用のペンで！)

53

### モンゴル遊牧民暮らしカード

### サステナビリティカード

遊牧民の文化とつながりそうな  
持続可能な社会づくりのヒント(サステナビリティ)をマッチングさせよう！

環境

社会

経済

←かかわりそうなものに○  
(ホワイトボード用のペンで！)

**「マッチングの解答」**

① 遊牧民は季節ごとに、家畜と、暮らす場所を移動する。	(F)草が食べ尽くされることがなく再生される。	⑥ 家畜は内臓や血も食べる。皮や毛もヒモやフェルトなどに。	(J)食料や生活に必要なものなど、様々な活用方法で無駄なく使い切る。
② 遊牧民は、乾燥肉や乳製品などの保存食を作る文化がある。	(I)備蓄は自然災害への備えにもなる。発酵食品は健康にも良い。	⑦ 家族全員で家の仕事をを行う。隣人とも助け合う。	(E)人の手が必要なときはお互いに助け合える強いつながり。
③ 乾燥させた家畜のフンを、料理や暖房の燃料に使用する。	(G)石油や石炭に頼らないので環境に優しい。自然の循環。	⑧ 太陽光パネルで電気をつくる。ものが壊れても自分で修理。	(C)きれいなエネルギーを使い続けられる。資源の循環。
④ 馬は大切な移動手段。大人も子どもも自由自在に駆ける！	(B)二酸化炭素を排出しない、エコな移動手段。	⑨ 食事は乳製品や肉料理が中心。タンパク質、ビタミン豊富。	(A)栄養不足にならず健康状態を維持できる。体力あり！
⑤ 遊牧民の家畜は、主に羊、ヤギ、牛、馬、ラクダの5種類。	(H)好みの草が異なるため草地への負担が少ない。家畜によって活用方法がさまざまある。	⑩ 考え方「必要な分だけ、取り過ぎない。自然はみんなのもの。」	(D)自然が維持される。誰もが自然の恵みを得られる。

54



55

ホワイトボードの左側に書く

改めて...  
モンゴルの遊牧民の「強み」とは？  
なぜそれが強みになるの？

56

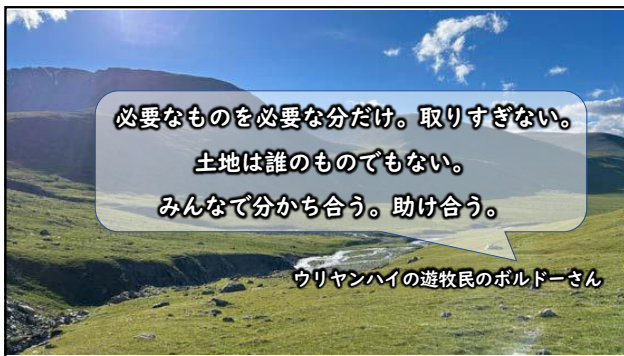


57

2019年12月

モンゴルに魅せられて...

58



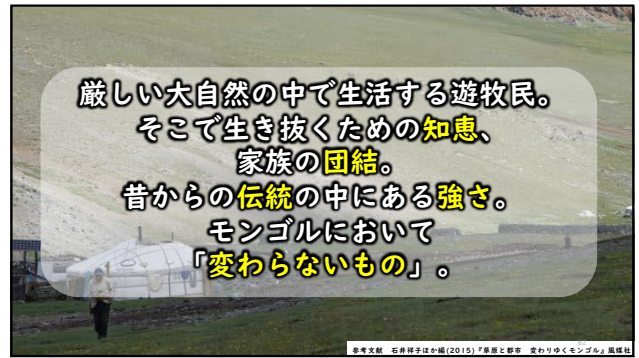
59



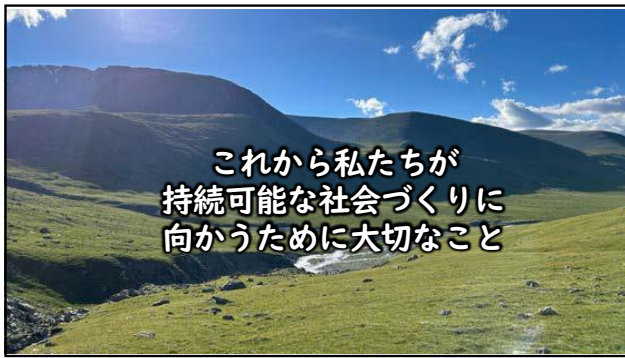
60



61



62



63



64



65

考え方 知恵 文化 習慣 伝統 資源 技術 など

持続可能な社会づくりにつながりそうな  
**私たちの強みとは？**

(ひと、もの、こと)

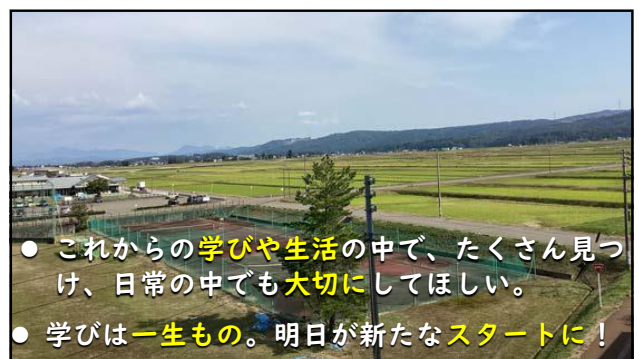
ホワイトボードの右側に書く

○班

66



67



68



# 私たちの強みとは？

## モンゴルの遊牧民の暮らしから考えよう

1年 組 番 氏名〔 〕

① モンゴルの遊牧民の強みとは？

② 私たちの強みは？

☆今日の振り返り（気づき、考えたこと、感想など）

---

---

---

---

---

---

---

---

教材① フォトランゲージ用写真  
(A・B・C)

教材② 「モンゴルの遊牧民の暮らしカード」と「サステナビリティカード」

1



2



3



4

<p>①遊牧民は季節ごとに、家畜と、暮らす場所を移動する。</p>	<p>⑥家畜の内臓や血もいだけ。皮や毛はヒモやフェルトなどに活用</p>
<p>②乾燥肉や乳製品などの保存食を作る文化がある。</p>	<p>⑦家族全員で家の仕事を行う。家畜の管理は隣人と助け合う。</p>
<p>③乾燥させた家畜のフンを、料理や暖房の燃料に使用する。</p>	<p>⑧太陽光パネルで電気をつくる。ものが壊れても自分で修理。</p>
<p>④馬は大切な移動手段。大人も子どもも自由自在に駆ける！</p>	<p>⑨食事は乳製品や肉料理が中心。タンパク質、ビタミン豊富。</p>
<p>⑤遊牧民の家畜は、主に羊、ヤギ、牛、馬、ラクダの5種類。</p>	<p>⑩考え方「必要な分だけ。取り過ぎない。自然はみんなのもの。」</p>

5

<p>(A)栄養不足にならず健康状態を維持できる。体力あり！</p>	<p>環境 社会 経済</p>	<p>(F)草が食べ尽くされることがなく再生される。</p>	<p>環境 社会 経済</p>
<p>(B)二酸化炭素を排出しない、エコな移動手段。</p>	<p>環境 社会 経済</p>	<p>(G)石油や石炭に頼らないので環境に優しい。自然の循環。</p>	<p>環境 社会 経済</p>
<p>(C)きれいなエネルギーを使い続けられる。資源の循環。</p>	<p>環境 社会 経済</p>	<p>(H)好みの草が異なるため草地への負担が少ない。家畜によって活用方法がさまざまある。</p>	<p>環境 社会 経済</p>
<p>(D)自然が維持される。誰もが自然の恵みを得られる。</p>	<p>環境 社会 経済</p>	<p>(I)備蓄は自然災害への備えにもなる。発酵食品は健康にも良い。</p>	<p>環境 社会 経済</p>
<p>(E)人の手が必要などきはお互いに助け合える強いつながり。</p>	<p>環境 社会 経済</p>	<p>(J)食料や生活に必要なものなど様々な活用方法で無駄なく使い切る。</p>	<p>環境 社会 経済</p>

6